

地方組織からの「言語聴覚の日」イベント報告

日本言語聴覚士協会は9月1日を「言語聴覚の日」とし、コミュニケーション障害や摂食嚥下障害について、また言語聴覚士の業務について広く知っていただくために、集中的な広報活動を展開および推進しています。本誌では、岡山県、奈良県の取り組みをご紹介します。他県の取り組みについては協会ホームページをご覧ください。

● 岡山県言語聴覚士会

ことばの架け橋 ～コミュニケーションがつなぐ人と人～

実行委員長 糸山 克哉

例年、「言語まつり」と称して開催してまいりました岡山県言語聴覚士会主催の「言語聴覚の日事業」ですが、本年は日本言語聴覚士協会から活動資金をいただき、「ことばのバリアフリー」をテーマとしたシンポジウムを開催いたしました。

基調講演として、株式会社ユーディット(情報のユニバーサル研究所)会長・同志社大学教授の関根千佳先生に情報支援技術の観点からコミュニケーションのバリアフリーについてお話しいただきました。

次いで県内の言語聴覚障害者団体(公益社団法人岡山県難聴者協会、岡山言友会、新声会、失語症友の会コスモス、脳外傷友の会・モモ)から、それぞれの障害におけるコミュニケーションのバリアについてお話しいただき、最後に関根先生を中心に

団体代表の方々と今後の展望を語り合いました。日頃接点のない言語聴覚障害の当事者同士が、それぞれの情報を共有し、発表していくという内容は、岡山県言語聴覚士会として初めて、社会に対する積極的なアピールとなりました。関根先生より障害に対する社会の問題点を解決する手掛かりを提供していただいたことは貴重でした。また、社会生活を送る上でのサポートの方向性や最新の技術を知ることができました。そして、より良い補償を利用した生活が望めるということも分かり、安心することもできました。しかし、まだまだ情報不足の現実もあり、言語聴覚障害がある方々の今後の補償の方向性を再度確認しなければならないという言語聴覚士の新たな目標を持てた貴重な会となりました。



多くを学ぶとともに、新たな課題を確かめられた一日になりました